

環境エネルギー技術革新計画

総合科学技術・イノベーション会議（平成25年9月13日）

2050年に世界の温室効果ガス排出量半減（**先進国は8割**）の目標を達成するとともに、途上国で経済成長の制約となっている環境・エネルギー問題の克服に貢献するため、**革新的技術の着実な開発**と普及により、世界の温暖化問題やエネルギー需給の逼迫等の課題の解決に貢献する。

①革新的技術の特定

「革新的技術」として37の技術を特定。こうした技術を相手国ニーズに即した技術開発や製品の最適化、複数技術の組み合わせによる海外展開を行うことが重要。

短中期（2030年頃まで）に開発する技術

○生産・供給分野

・高効率石炭火力、高効率天然ガス発電、風力発電、太陽エネルギー、地熱発電、原子力 等

○消費・需要分野

・次世代自動車、革新的構造材料、革新的デバイス、エネルギーマネジメント、省エネ住宅・ビル 等

○流通・需給統合分野

・燃料電池、高性能電力貯蔵、蓄熱・断熱等技術 等

中長期（2030年頃以降）の実用化を目指す技術

・二酸化炭素回収・貯留（CCS）、人工光合成、バイオマス利活用、水素製造・輸送・貯蔵 等

②技術開発推進の施策強化

③国際展開・普及に必要な方策

キーワードは

異分野融合



情報通信技術

若手研究者

